



vol.40

文責：荒木 秀夫
(徳島大学大学院教授)

「分化の分化能力」と「選択の基準」

ある動きをする直前に、突然、その動きを変化させる能力が「分化の分化能力」であることを前回述べました。野球のピッチャー、ハンドボールのラテラルパスの例から説明したわけですが、今回は、その「分化の分化能力」について、もう少し説明を加えることにします。

例えば何枚かのカードが手元にあり、カードには丸、三角、四角といったさまざまな形が、赤、青、黄色などの色で描かれているとします。

これらの形、色が絡んだカードを分類するとなると、形ごとに分けるか色ごとに分けるかというように二つの方法があることになります。

そこで、何かの「形」の合図が示されると、その「形」のカードを素早く選ぶとすると、頭の中でカードの形に注意を向けますが、合図が「色」の指示であれば、「色」に注意を向けることになります。

しかし、途中で、「形」の合図を予告なく「色」に変化させると、カードを選ぶのに一瞬とまどってしまいます。「形を選ぶ」「色を選ぶ」といった範囲でカ

ドを選ぶ能力は「分化能力」ですが、「形」か、「色」かという選択の基準を変化させる能力は「分化の分化能力」ということになります。

スポーツにおけるフェイントは、これと同じ仕組みであると考えてください。

よく、フェイントは、選手が予想していた動きと違ったので、「反応を間違える」というように解釈されますが、コオーディネーション能力においては、この分化能力を発揮するための「選択基準」の切り替えという「分化の分化能力」から解釈することになります。

スポーツとしてのボウリングでは、正確にボールを操作してストライクを狙う動きが分化能力として発揮されます。「選択基準」は変わらないように思われるかもしれませんが、このことは初級者、中級者のレベルの世界と考えた方が良いでしょう。

もともとのレーンのワックスの状態だけでなく、ゲームの回数が増えていくとワックスの状態も微妙に変化するので、上級者はレーンに対応するための動きをつくる「選択基準」を変化させることができます。

すなわち「分化の分化能力」を獲得しているわけです。まずは、分化能力はいろいろな段階へと発達する能力であることを理解していただければと思います。

問合せ先／スポーツ推進課 プロ
ジェクトK・スポーツ推進係
☎ 57・4850



乳児シリーズ vol.11

赤ちゃんにとっての環境と、「知性・感性」の育み

これまでに赤ちゃんにとっての環境の意義について述べ、その中で赤ちゃんが自ら進んで積極的に環境へ働きかけることの重要性について触れてきました。結論として、赤ちゃんの知性と感性は、環境が育むといったことがいえます。赤ちゃんにとっての環境は、もともと狭く限られた環境から次第に広く複雑な環境へと変化していきます。

赤ちゃんの側からみると、例えばテレビのリモコンなどは何か不思議なもの、いろいろな色がちりばめられ、硬くて重たいものとして映りますが、大人にとっては、リモコンはテレビにつながる一体的なものとして、つまりテレビの一部という要素として捉えられます。赤ちゃんにとって、テレビはテレビ、リモコンはリモコンとして、二つには何らつながりのない別々の環境要素であったとしても、やがて、リモコンを「いじる」ことによって、テレビとリモコンの一つの環境要素に統合されます。

母親の存在、父親の存在。そして兄弟姉妹の存在は、他人と区別することなく一人一人の存在として別々に認識することになりますが、やがて家族の一体感を持つようになります。ここでも、「働きかけ」、つまり環境への働きかけとして、自分が働きかけに対する反応によって、人間一人一人の関係におけるつながりや、自分と他の人とのつながりを理

解することになります。よちよち歩いて転んだ時に、いつも抱きかかえてくれる人、悪さをするとき自分に向かって怖い顔をする人…。とにかく自分が行動することによって、人や物や風景が、客観的には同じであっても、まったく違った環境へと変化していくことになります。違った環境というのは、「環境の捉え方」の違いで、この差は、まさに知性と感性の発達に基づいています。正確に言えば、知性、感性は環境への働きかけがあり、環境からの刺激があり、その相互作用によって知性、感性が育まれるということになります。

こうした、赤ちゃんにとっての「環境の捉え方の違い」を促す過程では、前回で触れた「身近な環境」が重要な意味を持ちます。言い換えれば、この環境によって知性、感性の発達が始まるということにもなります。身近な環境を、私は「近位環境」と定義していますが、近位環境が、やがて「思考」するための抽象的な環境へと、「環境の捉え方」を発達させることにつながっていきます。積み木やクマの人形は、決して、単なる「おもちゃ」ではありません。この環境と知性・感性の発達のことについては、赤ちゃんシリーズの最後として、次回でまとめることにします。

